

- 私たちの「安心」、「確信」とは?何をもって人生を安定させているだろうか?
 - 「見たことば」(1節)→まだ見えない世界へと目を向ける時、神さまの約束の言葉が支えとなる。
 - 天を仰ぎみる時、地のことも備えられる。地にのみ目を向ける時、天も地も全て失う。
- 1) 希望の力(2:2-5) 2:2-4=ミカ書 4:1-3
 - 2:2「終わりの日に」→終末(創世記 1:1 とのコントラスト)。イザヤが見たものとは?
 - ◇ 神礼拝の光景。最も大切なこと=神さまを礼拝すること
 - 国々、多くの民族が集まる(2:2b-2:3)。彼らは言う。「さあ、主の山、ヤコブの神の家に上ろう。主はご自分の道を私たちに教えてくださる。私たちはその道筋を進もう。」
 - 2:4「その剣を鋤に、その槍を鎌に打ち直す。国は国に向かって剣を上げず、もう戦うことを学ばない。」=平和
 - ◇ Cf. 朝岡勝『剣を鋤に、槍を鎌に キリスト者として憲法を考える』いのちのことば社、2018年。
 - 「『平和は大切です』と口にするだけなら簡単ですが、しかし実際に、剣を鋤に打ち直し、敵意という壁を打ち壊し、平和をつくり出していくにはどうしたらよいのか。これが、私たちに与えられた大事な課題だと思われています。」(18頁)。農具→エデンに向けて。神との関係。呪いの除去。
 - 2:5 主を知る者としての特権と責任(申 4:5-8; 出 19:5-6; Ps 27:1; 43:3; Isa 42:6; 49:6; 使 13:47; 26:23; ルカ 2:32) 「光の子ども」として(エペソ 5:8)
- 2) 謙遜さの力(2:6-22)
 - 人間の高ぶり、高慢さ=すべての問題の根源
 - A) 神の民の高ぶり(2:6-9)
 - ◇ 「満ち」、「あふれている」、「限りない」→様々な物や事柄で満ちあふれる生活。だが、聖霊によって満ちあふれた歩みは何処に。銀、馬→安心、確信、信頼を表現。
 - ◇ 先ずは空にならないと神さまの望まれることが入ってこない。9節「こうして人間はかがめられ、人は低くされます。彼らを赦さないでください。」→赦されることなどあり得ないという意味。V. 7 cf. Isa 31:1 「主を求めない。」
 - B) 世の中の高ぶり(2:10-19)
 - ◇ 「すべての～」→12-16節で10回使用されている。強調。神の御国が現れる時、世の「すべて」が低くされる。そして神さまのみが高く上げられる(2:11, 17)。
 - 神さまが栄光を受ける時こそ、私たちが満たされ最も幸せな時。競争ではない。いつまでも神さまが人間と競争していると考えてしまう私たち。Jonathan Edwards の言葉。
 - 「主の日」の到来。裁き(2:12-21)、勝利(9:1-7)、完成と神の支配の享受(ホセア 3:5)。
 - ◇ 「主の恐るべき御顔」(2:10, 19, 21):偶像は何もできない。
 - C) 偶像礼拝の中の高ぶり(2:20-21)
 - ◇ なぜ聖書は偶像礼拝を禁じるのか?→人間がコントロールできていると勘違いさせるから。分かりやすい。簡単。便利。都合が良いから。
 - ◇ 何かを得るためには「捨てる」ことが求められる。(例:安息について、ピリピ 3:8→キリストを得るため)
 - 2:22→低くされる経験が齎す祝福。Isa 40:15, 17; 詩 144:4; ヤコブ 4:14; Ps 115:4-8, 9-13(主に信頼せよ)。
 - ◇ 神さまの守り。Russell, Nellie. "A Woman's Experience in the Siege of Peking." *The Missionary Review of the Word*. January, 1901. pp. 48-50. 小さな女の子とお父さんの例。
- 主ご自身によって満たされている?エペソ 1:3 を信じて歩んでいる?主の光のうちに信頼して歩いていきましょう。